ＩＣＴ教育通信

令和３（２０２１）年７月１日
第３号　小郡市教育委員会

ＩＣＴ推進に係る各小中学校ＰＴＡからの「提言」・ご感想

６月２４日に各小中学校のＰＴＡ代表が参加する「小郡市教育推進協議会」がありました。会の中で、ＩＣＴ教育に係るＰＴＡからの「提言」として、次のような内容を説明いただきました。教育委員会としても、真摯にこれらの提言内容を受け止め、今後の教育充実に生かしていくことをお答えいたしました。

＜「ＰＴＡからの提言」（※ＩＣＴ教育に係る内容）＞

- オンライン授業など変化に対応する設備の充実・拡充がもっと必要
- 先生方の授業技術向上のためＩＣＴ教育専門の先生を配置する
- オンラインでの国際交流事業を増やし、子ども達の国際感覚を育てる
- オンライン等での授業参観の試みにより信頼関係の構築につなげる
- 児童生徒がインターネットを使用するに当たってのモラル指導の充実
- ＳＮＳに関する問題行動と情報提供、保護者地域への啓発を目的とした講演会
- 臨時休校になった場合、リモートで朝礼を行うなど、家庭の生活指導の支援を
- ＩＣＴ環境の活用（ソフト面の充実）とＩＣＴスキルが高い保護者のサポートボランティアとしての活用推進

◆　教育委員会からも「一人一台を活用したＩＣＴ教育」についての受け止めや感想について、アンケートを取らせていただきました。いくつか例をご紹介します。

＜ＩＣＴ教育推進に係る小中学校ＰＴＡ代表へのアンケート回答例）＞

○　自主的に操作できていることで、自宅でも自信をもって色々他のもので調べるようになった気がします。子どもも楽しんで扱うことで、学ぶことに対しての考えが変わっていくのかなと感じています。今後ももっともっと活用してほしいです。（味坂小ＰＴＡ）

○　パソコン、タブレットが使えて当たり前の時代。早い段階で授業ができることは、とても良いことだと思います。子ども達は、覚えもよくすぐ使いこなし、楽しくできていると思います。今後の授業においても幅が広がり、様々な事にチャレンジして頂ければと期待しております。（小郡小ＰＴＡ）

○　個人的には、アクティブラーニングやプログラミング教育など、他の先進国で普及している学びができるスタートラインにようやく立てたと感じている。ただし、活かすも殺すも今後次第。（宝城中ＰＴＡ）

○　今までは、ペーパーでの学習が当たり前だった時代でしたが、新しい学習方法として非常に良い取り組みだと感じております。子ども達がタブレットに関わることで、情報活用能力が育成されることを期待いたします。今の時代、情報収集や発信するためのアイテムとしてＰＣ、スマートフォン、タブレットは、欠かせないものだと思います。ただ、使い方を間違えてしまうと危険性と隣り合わせのため、正しい使い方の指導も重要だと思っております。（小郡中ＰＴＡ）

★　６月２８日の推進委員会で、報告・協議されたポイントを紹介します。

■　教職員の負担感を和らげながらタブレット活用を浸透させる工夫

○　学校や家で無理なくシンプルに進められる活用方法を共通理解する。
○　情報を行き渡らせるための校内体制を工夫する。
　・主題研修とＩＣＴ教育推進を一体化
　・ＩＣＴが得意な先生と苦手な先生のペアリング　　等
○　先に取り組んだ先生が作成したデータを他職員も共有する。

御原小２年国語

■　タイピング能力育成のための取組の工夫

○　朝や帰りの時間を使ってタイピング練習（タイピング週間や月間の設定）。
○　持ち帰って、タイピングアプリや短作文でタイピング練習。
○　休み時間や昼休み等、自由にタイピング練習。
※　*朝、保管庫から取り出し、帰りに保管庫に入れる実践を行っている市内学校では、休み時間等にも自主的に活用でき、授業中の出し入れの手間もなく、有効的に活用できているそうです。*
○　発達段階に応じてタイピングソフトを使い分ける。（下記例：のぞみが丘小）
　（２年「プレイグラム」３年「マイタイピング」４～６年「ｅ－ｔｙｐｉｎｇ」等）
※　学習と組み合わせたタイピングも有効です。（４年で「県名を打つソフト」等）

■　夏季休業中の持ち帰りについて

タブレットの主体的な活用が進むよう、夏季休業中も持ち帰りを行い、タブレットを「使い慣れる」ようにすることが有効です。（タイピングや写真・検索等）

充電の関係もあるので、以下の例も参考にしながら、各学校の実態に応じて持ち帰りの計画・実施をお願いします。

○出校日や部活動等、学校に来る機会を利用して充電する。
○学年によっては、充電器を抜いて持ち帰って使う。

大原中学校　山本　拓教頭（小郡市ＩＣＴ教育推進副委員長）より

各学校では、ＩＣＴ教育を進めていく中で様々な課題も見えてきたと思いますが、組織的に課題解決に向けて取り組まれていることと思います。

ＩＣＴ教育推進委員会で各校の状況を聞いておりますと、授業でロイロノートを使った交流場面を中心として、４月からの３か月間でタブレットの活用がとても増えてきました。子どもの積極的な授業への参加はもちろんですが、授業内容の幅が広がったという先生方の感想も多くあります。

今後も子どもたちの学びの支援のために、情報モラル教育と両輪で組織的、継続的に推進していくことが大切だと思います。